

# 長浜市防災情報伝達システム基本計画

平成 30 年 8 月

長 浜 市

## 1. 基本方針策定の目的

現在、長浜市において災害等が発生するおそれがある、または発生した場合、伝達手段のひとつとしては、主に同報系防災行政無線にて行っています。

しかし、現在使用している同報系防災行政無線のうち「びわ・虎姫・湖北・高月・西浅井・余呉地域」については、合併以前において整備されたアナログ同報系防災行政無線を引き続き使用し、長浜市全体でシステムが統一されておらず、老朽化等の様々な課題があります。

このような課題を解決し、情報伝達方法の多様化を見据えた、長浜市にとって最適となる防災情報伝達システムの基本方針を策定します。

## 2. 長浜市の概要

長浜市は、地方自治法第 252 条の 2 第 1 項及び合併特例法第 3 条などの法律に基づき、長浜市、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町及び西浅井町を合併して現在の長浜市が平成 22 年 1 月 1 日より発足しました。

地勢として、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接し、東に伊吹山系の山々、西に琵琶湖があり、中央には伊吹山系を源とする姉川や高時川、余呉川等により形成された湖北平野が広がっています。また、市域東部、東北部及び北部には山地が広がっています。

京阪神や中京、北陸の経済圏域の結節点としての位置にあり、京阪神や中京の経済圏域からはおおよそ 60km 圏内、北陸の経済圏域からはおおよそ 100km 圏内にあります。

長浜市の総面積は 681.02km<sup>2</sup>（うち琵琶湖の面積が 142.42km<sup>2</sup>）であり、滋賀県全体のおよそ 17.0%を占めています。

平成 30 年 6 月現在、人口は 118,676 人となっています。



図 1 長浜市位置図

### 3. 災害想定

長浜市に想定される災害は、次のとおりです。

#### (1) 風水害

- ・大雨によって姉川、高時川、余呉川が氾濫した場合、市内多くの地域で風水害による被害を想定。
- ・市内の中小河川が増水し、低地域で浸水被害が発生すると想定。
- ・市域東部、東北部及び北部の山地部には、土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所が多く分布し、山地・丘陵地の麓部で土砂災害が発生すると想定。
- ・大雨が続いて琵琶湖の水位が上昇した場合、琵琶湖岸沿いの低地で浸水を想定。

#### (2) 地震被害

- ・内陸活断層地震と近い将来発生することが予測されている、南海トラフ地震が想定されている。

#### (3) 原子力災害

滋賀県と隣接する福井県には、4市町（敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町）に6つの原子力事業所が所在し、計15の原子力施設が設置されています。

そのうち、長浜市と接する敦賀市には、3つの原子力事業所が所在し、合わせて4つの原子炉が設置されています。滋賀県境から最も近い日本原子力発電株式会社敦賀発電所までの距離は、最短で約13kmの位置関係にあります。



図2 原子力発電所位置図

#### 4. 防災情報伝達の現状

##### (1) 同報系防災行政無線

長浜市には、全地域に同報系防災行政無線を導入しています。長浜・浅井・木之本地域はデジタル同報系防災行政無線にて運用を行っています。

びわ・虎姫・湖北・高月・余呉・西浅井地域については、平成 22 年の合併以前より導入したアナログ同報系防災行政無線にて現在も引き続き運用を行っています。

異なるシステムではありますが、平成 24 年に長浜市役所本庁舎からも放送が行えるように統合を行いました。

##### (2) その他システム

補完する伝達手段として、安全・安心メールシステムを導入しています。避難情報、災害の発生情報等の防災情報や、気象警報、地震情報等をメールでお知らせしています。

また、市のホームページや緊急速報メール等により情報伝達を行っています。

#### 5. 防災情報伝達の課題

各地域で導入している同報系防災行政無線は、長浜・浅井・木之本地域を除き、合併以前から導入しているシステムを現在も使用しています。

現在の長浜市における防災情報伝達の課題は次のとおりです。

- ① システムが統一されていないため、放送開始までの時間が地域によってばらつきがあり、緊急時における迅速な情報配信にも限界がある。
- ② 導入から年月が経ち老朽化対策や故障時における修理が困難となることも増え、今後も運用を維持していくのに支障が出るのが懸念される。
- ③ 無線機器の規格が改正されたために対応していない機器は、平成 34 年 12 月までに対策をする必要がある。
- ④ 同報系防災行政無線をデジタル化した場合、戸別受信機を全戸に整備すると非常に高額な費用（約 22 億円）が必要であり、市内全域に受信できる環境を整えるのは困難であるため、代替手段が必要となる。
- ⑤ 同報系防災行政無線以外への防災情報の配信について、人々の生活観やライフスタイルが多様化する中で、防災情報伝達方法についても多様化を考慮する必要がある。
- ⑥ 「同報系防災行政無線」、「安全・安心メールシステム」、「市ホームページ」等の各々のシステムは、別操作となっているため、情報更新時の入力作業には、時間差が発生するだけでなく、複数回の操作や入力ミス、配信の失念が懸念される。

現在の長浜市における同報系防災行政無線の設置状況は次のとおりです。

	長浜地域	浅井地域	木之本地域	虎姫・湖北・高月・余呉・西浅井地域		
無線方式	デジタル					
親局	長浜市役所					
中継局	—	上草野中継局	菅山寺中継局			
	—	1局	1局			
再送信子局	—	—	—	月出再送信局		
	—	—	—	1局		
子局	アンサー有	18局	7局	35局	5局	
	アンサー無	70局	63局	—	—	
戸別受信機	71台	28台	50台	—		
導入年度	平成17～18年度			平成24年度		
備考				各支所へ子局を設置し、アナログ設備への接続用として利用。		
	びわ地域	虎姫地域	湖北地域	高月地域	余呉地域	西浅井地域
無線方式	アナログ	アナログ	アナログ	アナログ	アナログ	アナログ
親局	旧びわ支所	旧虎姫支所	湖北支所	高月支所	旧余呉支所	西浅井支所
中継局	—	—	—	—	菅並中継局	月出中継局
	—	—	—	—	1局	1局
再送信子局	—	—	—	片山再送信局	中河内再送信局	菅浦再送信局
	—	—	—	1局	1局	1局
子局	アンサー有	34局	10局	—	35局	22局
	アンサー無	—	—	9局	—	—
戸別受信機	約1000台	約2000台	約2000台	約3000台	約1450台	約1500台
導入年度	平成16年度	平成8年度	平成8年度	平成10年度	平成16年度	平成14年度
備考	平成18年度にデジタルと統合					

表3 長浜市同報系防災行政無線設置状況

(平成30年6月現在)

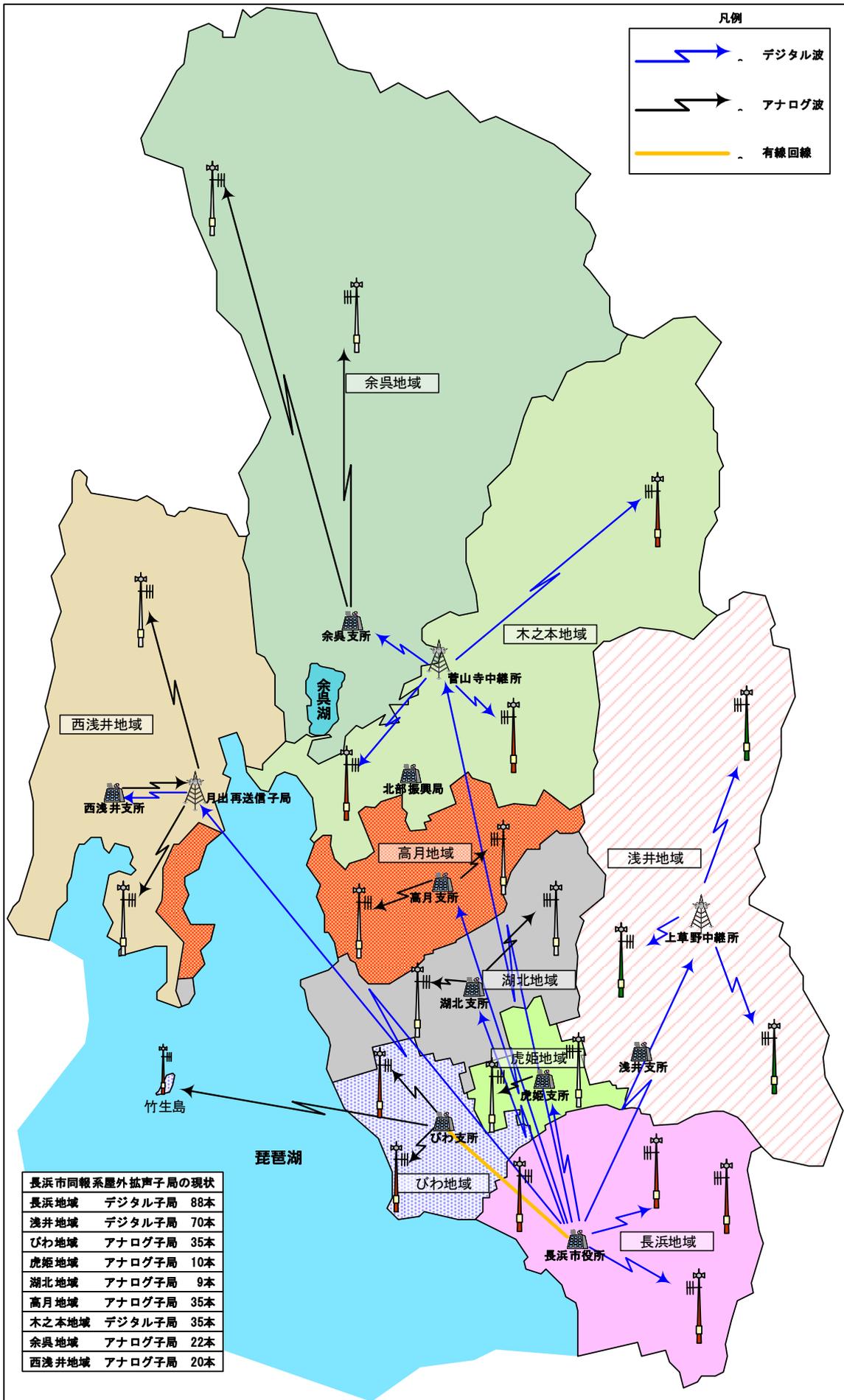


図4 長浜市同報系防災行政無線現状イメージ図

## 6. 防災情報伝達システムの基本方針

### (1) 屋外への伝達方法

屋外への伝達方法は、現在、長浜・浅井・木之本地域で運用している「デジタル同報系防災行政無線の屋外拡声子局」を長浜市全域に拡張します。

これにより、びわ・虎姫・湖北・高月・余呉・西浅井地域で運用中のアナログ同報系防災行政無線の屋外拡声子局は、デジタル化への更新を行います。

### (2) 屋内への伝達方法

屋内への伝達方法は、県内を放送エリアとするエフエム滋賀（e-radio）の「FM放送を使用した緊急告知防災ラジオ」や「防災アプリ」を使用したプッシュ通知機能の導入を行うことにより、防災情報伝達方法の多様化を図ります。緊急告知防災ラジオは、緊急時には自動で起動して緊急情報を聴くことができます。

さらに、「デジタル同報系防災行政無線」、「防災アプリ」、「安全・安心メールシステム」、「市のホームページ」、「緊急速報メール」等と連携を行います。これは、一つの操作で複数のシステムを同時に確実な情報配信を行え、長浜市全域への迅速な防災情報伝達を目指します。

なお、現在、びわ・虎姫・湖北・高月・余呉・西浅井地域で整備している戸別受信機は市内全域に放送できないため再整備しないこととします。

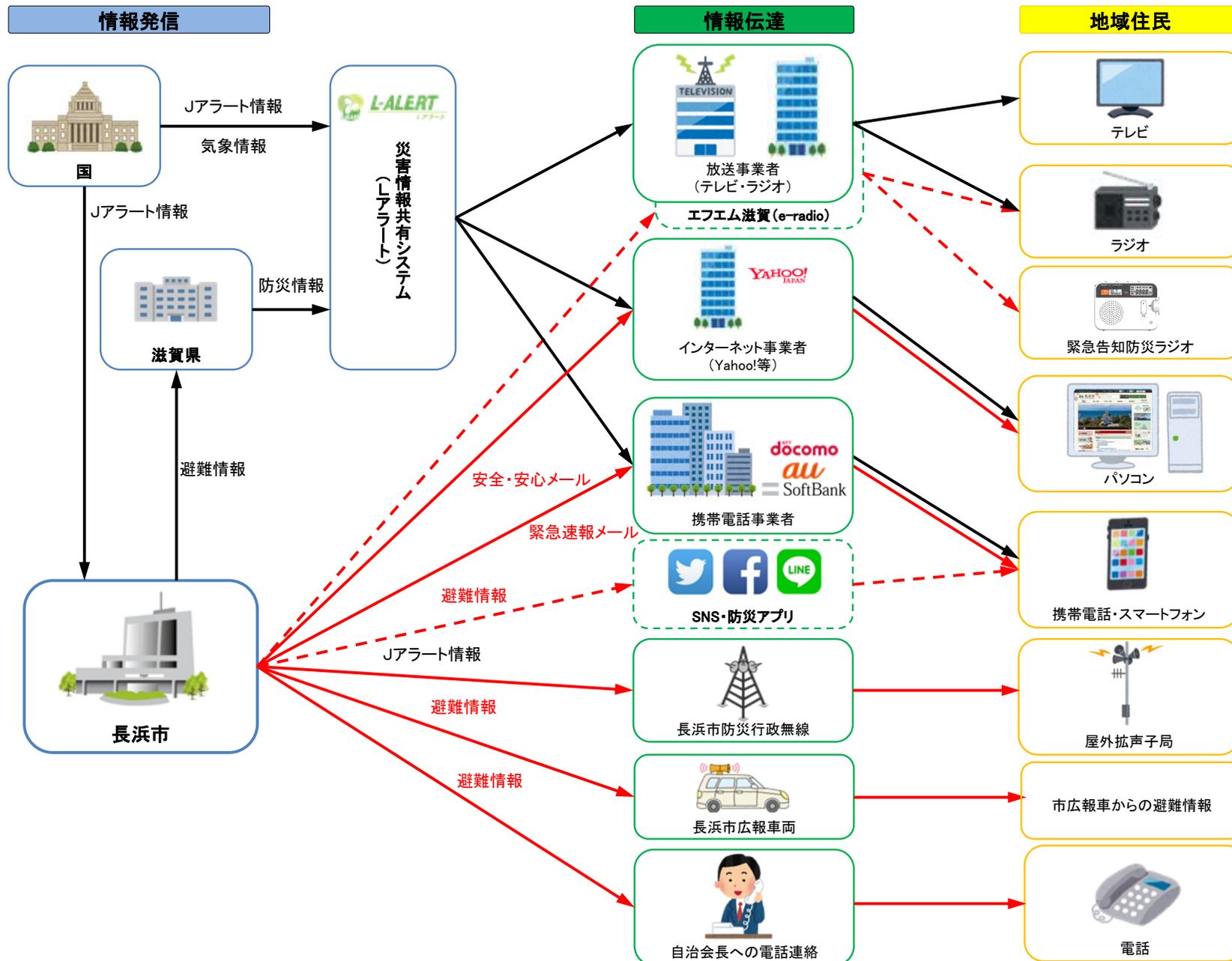


図5 計画する防災情報伝達イメージ図

## 6. 整備計画スケジュール（案）

	2018年	2019年	2020年	2021年
基本設計	→			
実施設計		→		
親局設備等改修			→	
屋外拡声子局設置			→ 随時運用開始	
緊急告知FMラジオ端末整備			→	
情報提供ツール等の開発			→	
本格運用開始				→
アナログ設備撤去				→

※平成30年6月末時点の計画スケジュール（案）です。